

小学校助教諭の体力・技能と教科体育への意識(第3報)

—女子教員の取得免許別意識を中心として—

森 清・阿部正臣・梶原洋子・木 一郎

The Physical Fitness, Skill and Consciousness of Physical Education in Elementary School Teachers (3)

by

Kiyoshi Mori, Masaomi Abe,
Yoko Kajiwara, Ichiro Shimeki

序

初等教育の教員養成課程における教科教育と教材研究と呼ばれている講座を担当するとき、将来一教師として十分な体育指導を行う上において、「教科教育や教材研究の在り方」、「指導の中核となるべき技能や指導力の修得状態」などの問題が提示されてくると思われる。しかも限られた授業時間数の枠内でより効果をあげるためには、教科教育や教材研究の内容は如何にあるべきかを構造化する必要が生じてくる。

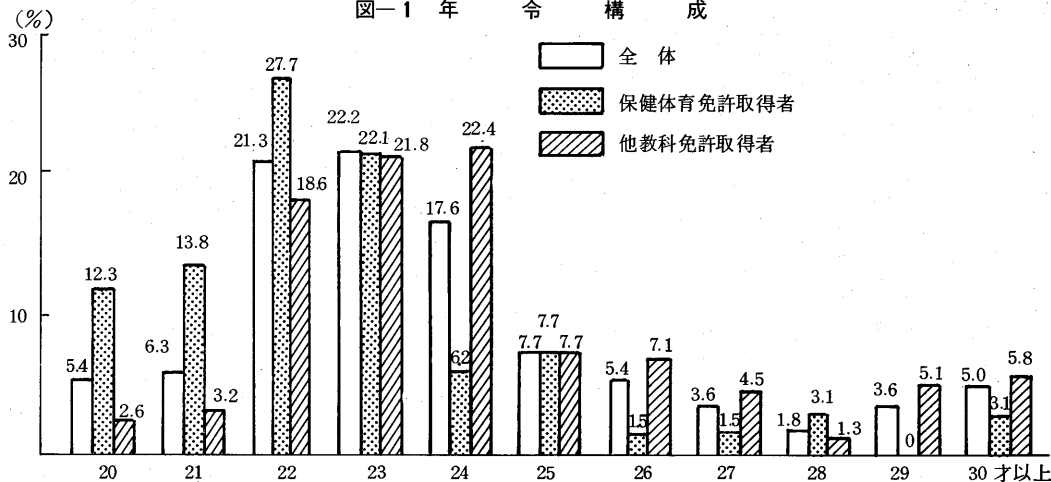
本研究では上記問題の解明の第一歩として、本学に小学校教諭2級免許状取得のために通学している現職にある小学校助教諭を対象に、「体力・技能の実態」、「教科体育に対する意識の実態」、「体力・技能の有無と教科体育に対する意識の関連」について追求しようとするものである。

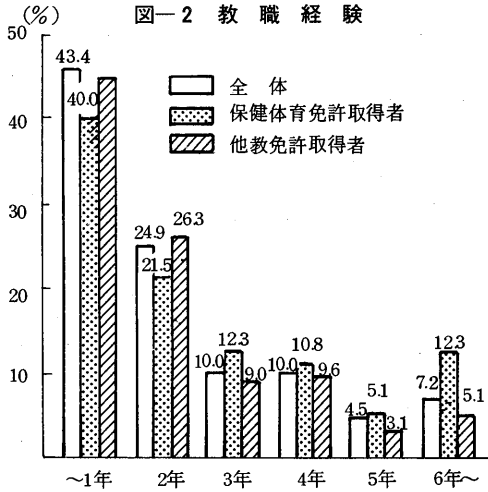
既に、拙稿第1報および第2報で次のような結果を得

ている。①体力では文部省調査と比較して男子教員の垂直とび、女子教員の垂直とびと反復横とびに有意に優れていた。②技能では女子教員の技能の劣ることが認められた。さらに教科体育の意識については③体育の好き・嫌いや指導の難易性に性差がみられ、女子教員の意識が低く、④運動領域別指導の難易性ではできる・できないが明確にあらわれやすい器械運動や水泳に、技能に対する自信の有無や危険に対する認識が指導の難易性に深く関連し、また⑤体操やダンスでは運動領域に対する基礎的知識や研究の不足が指導のしやすさ・しにくさに関連していることが認められた。⑥学生時代の運動部経験の有無が教科体育の意識に差異が認められ、⑦技能の有無が当該運動領域の指導のしやすさ・しにくさに結びついていることがわかった。

本研究、第3報においては第1、2報を手掛りとして、未解明であった取得免許別の教科体育への意識、すなわち体育を専攻し体育の免許取得者(以降体免取得者という)

図一 一年令構成





である教員の教科体育に対する意識は何んらかの示唆を与えるものと思われることから、他教科の免許取得者（以降、他免許取得者という）との比較検討により解明しようとするものである。但し、男子教員の体育の免許取得者は標本数の不足から、女子教員を中心に考察することにした。

研究方法

1. 対象者

埼玉県教育委員会から本学に委嘱された小学校助教諭555名を対象とした。有効数は女子助教諭222名（体免許取得者65名，他免許取得者157名）で体育指導を行っている者である。対象者の内訳は図-1，図-2に示す通りである。

2. 調査期間

調査期間 昭和51年10月，昭和52年6月

(1) 調査項目

○教科

①小学校8教科の好き・嫌い②小学校8教科の指導の難易性③教科体育の指導の難易性および運動領域別指導の難易性④運動領域別指導のしやすい理由・しにくい理由など。

○授業運営

①授業中の示範②運動領域別指導の形態および重点③授業中の見学者の取り扱い方など。

○教科外

①休み時間などにおける児童との遊びの度合②体育クラブの指導状況など。

以上の調査項目について、質問紙による配票および郵送調査にて実施した。

3. 結果と集計処理

意識調査は各項目毎に男女別，教職経験別，担当学年別，学歴別，年令別，運動経験別，取得免許別，体力・技能の優劣別などを算出した。

上記の集計処理には東芝の電子計算機TOSBAC-5600を使用した。

結果と考察

1. 女子教員の取得免許からみた教科体育の意識

1) 教科体育の指導の難易性

表-1は教科体育の指導の難易性について調べたものである。体育の指導のしやすい・しにくいにおいては体免許取得者では指導「しやすい」73.8%，「しにくい」7.7%に対し，他免許取得者では指導「しにくい」18.5%，「しにくい」24.2%と他免許取得者の方が体育は指導しにくいとする傾向がみられた。指導しにくい理由として体免許取得者では「できる子とできない子の取り扱いがむずかしい」，「子どもが解放的になり，その管理がむずかしい」の理由を上げているが，他免許取得者では「指導方法がわからない」45.3%が最も多く，次いで「できる子とできない子の取り扱いがむずかしい」，「運動技能に自信がない」20.8%に同比率の理由を得ている。したがって体育を専攻した教員と体育以外を専攻した教員とに，教科体育の指導の難易性に対する意識の差の大きいことがわかった。

2) 教科体育の運動領域別指導の難易性とその理由

教科体育の運動領域は体操，器械運動，陸上運動，ボール運動，水泳，ダンスの6領域からなるが，教科体育

表-1 体育の指導のしやすい・しにくい (%)

項目	免許別	全体 (%)	体 免 (%)	他 免 (%)
しやすい		34.7	73.8	18.5
普通		45.9	18.5	57.3
しにくい		19.4	7.7	24.2

表-2 運動領域別指導のしやすい・しにくい (%)

免許別	項目	領域					
		体 操	器 械 運 動	陸 上 運 動	ボ ー ル 運 動	水 泳	ダ ンス
全 体	しやすい	44.1	49.9	37.8	59.0	16.7	21.2
	普通	47.7	29.3	51.4	33.8	41.4	40.5
体 免	しにくい	8.2	20.8	10.8	7.2	41.9	38.3
	しやすい	61.5	73.8	52.3	73.8	36.9	27.7
体 免	普通	35.4	16.9	41.5	21.5	36.9	43.1
	しにくい	3.1	9.2	6.2	4.6	26.2	29.2
他 免	しやすい	36.8	31.8	31.8	52.9	8.3	18.5
	普通	52.9	34.4	55.4	38.9	43.3	52.2
他 免	しにくい	10.2	33.8	12.7	8.3	48.4	35.7

の運動領域別指導の難易性については表-2のような結果を得た。6領域中、体免取得者では指導「しやすい」領域として体操61.5%、器械運動73.8%、陸上運動52.3%、ボール運動73.8%と半数以上の者が指導しやすいとしているが、水泳36.9%、ダンス27.7%と低率である。指導「しにくい」領域として水泳26.2%、ダンス29.2%であるが特にダンスでは体育を専攻した教員であっても指導しにくいとする傾向を示し注目される。他免取得者では指導「しやすい」領域としてボール運動52.9%が最も高い値を示し、次いで体操36.8%、器械運動31.8%、陸上運動31.8%と同様であるが、ダンス18.5%、水泳8.3%と低率である。指導「しにくい」領域として器械運動

33.8%、水泳48.4%、ダンス35.7%が高い値を示している。したがって体免取得者に比較し、できる・できないの技能の有無が明確である器械運動、水泳および取り扱いに苦慮しがちなダンスの領域に指導のしにくさが認められ、体免取得者と他免取得者との間に顕著な差異がみられた。

教科体育の運動領域別指導の難易性には、各領域の運動の特性等による影響が大きいと思われることから、運動領域別指導のしやすい理由・しにくい理由について体免取得者と他免取得者との比較において詳細に調査した。表-3は運動領域別指導のしやすい理由、表-4は運動領域別指導のしにくい理由である。

表-3 運動領域別指導のしやすい理由

領域	理由	免 許 別	全 体	体 免	他 免
体 操	1. 特別な技能・体力を要さなくとも指導できる		38.8	12.5	56.9
	2. 指導方法をよく知っている		18.4	25.0	5.2
	3. 体力を高める目標に対して、他領域よりも意図的、計画的であるので取り扱いやすい		49.0	60.0	41.4
	4. 一斉指導ができ、全体を把握しやすい		76.5	87.5	75.9
	5. 危険があまり伴わない		30.6	12.5	34.5
	6. そ の 他		0	0	0
器 械 運 動	1. 運動技能に自信ある		18.4	22.9	14.0
	2. 指導内容・方法が具体的である		40.8	29.2	52.0
	3. 指導方法をよく知っている		29.6	27.1	32.0
	4. 各自に具体的目標（練習の目あて）をもたせることができる		10.2	14.6	6.0
	5. 児童に興味・関心をもたせやすい		45.9	52.1	40.0
	6. 児童の管理が容易		2.0	4.2	0
	7. 個人の能力を発揮させるのが容易		21.4	37.5	6.0
	8. そ の 他		0	0	0
陸 上 運 動	1. 運動技能に自信ある		8.3	2.9	12.0
	2. 指導方法をよく知っている		10.7	14.7	8.0
	3. 結果が時間・距離など客観的な数値で表わすことができ、個人に具体的目標をもたせやすい		61.9	73.5	54.0
	4. 児童よりも体格が大きく、体力もあり、児童よりも能力に劣りこともなく、示範しやすい		4.8	2.9	6.0
	5. 競争が伴って勝負がはっきりしているので、興味をもたせやすい		45.2	47.1	46.0
	6. 基礎的運動であり、誰でもできるので取り扱いやすい		53.6	44.1	60.0
	7. 児童の管理が容易		3.6	2.9	4.0
	8. そ の 他		0	0	4.0
ボ ー ル 運 動	1. 運動技能に自信ある		26.0	31.3	22.9
	2. 指導方法をよく知っている		13.0	12.5	13.4
	3. グループ別に指導できる		38.9	31.3	43.0
	4. 全員一斉に指導でき管理しやすい		22.1	12.5	27.0
	5. 児童の発達に応じてルールやコート of 広さなど変えて行うことができ、扱いやすい		39.7	35.4	42.0
	6. 児童の好む運動であり、興味・関心をもっているので活発に指導を進めやすい		26.0	18.8	30.1
	7. チームプレーであり、集団意識を高めやすいし、児童の欲求を満すことができる		15.3	8.3	19.3
	8. そ の 他		0	0	0

水	1. 運動技能に自信ある	43.2	29.2	46.2
	2. 指導方法をよく知っている	43.2	54.2	23.1
	3. 児童に興味・関心があり、活発に指導を進めやすい	70.3	66.7	76.9
泳	4. 一斉指導しやすい	27.0	29.2	23.1
	5. その他	18.9	12.5	38.5
ダ	1. 運動技能に自信ある	29.8	50.0	17.2
	2. 指導方法をよく知っている	36.2	50.0	27.6
	3. 体力を要さない	6.4	11.1	3.4
ン	4. 危険が伴わない	19.1	16.7	20.7
	5. 音楽・楽器など利用でき、興味・関心をもたせやすい	76.6	55.6	89.7
	6. その他	10.6	5.6	13.8

表-4 各運動領域別指導のしにくい理由

(%)

領域	理由	色 許 別	全 体	体 免	他 免
体 操	1. 指導内容が多すぎる		5.6	50.0	0
	2. 目的にあった運動の選択・構成(つくり方)・具体的な運動方法などがわからない		55.6	50.0	56.3
	3. 各学年の具体的な目標が不明確な点多く、運動方法・運動量の決定がむずかしい		22.2	100.0	12.5
	4. 児童に興味・関心をもたせるのがむずかしい		33.3	0	37.5
	5. 固定施設やいろいろな器具の利用のしかたを知らない		0	0	0
	6. 集団行動における隊の集合・整頓、列の増減、方向変換などがむずかしい		27.8	0	31.3
	7. 個人差が無視されやすい		5.6	0	6.3
	8. 児童が解放的となり、その管理がむずかしい		11.1	0	12.5
	9. その他		0	0	0
器 械 運 動	1. 運動技能に自信がない		40.7	16.7	43.4
	2. 指導方法がわからない		33.9	16.7	35.8
	3. 指導内容が多すぎる		0	0	0
	4. 危険が伴う		42.4	33.3	43.8
	5. 「できる」「できない」が明確にあらわれるので、できない子どもに劣等感を与えやすいし、恐怖心・不安感をもたせやすい		32.2	33.3	32.1
	6. できる子とできない子の取り扱いがむずかしい		40.7	66.7	35.8
	7. 自分で行うのが好きでないし、興味・関心がない		5.1	0	5.7
	8. その他		0	0	1.9
陸 上 運 動	1. 運動技能に自信がない		25.0	25.0	25.0
	2. 指導方法がわからない		41.7	25.0	45.0
	3. 個人の能力をいかに引き出すか、また最大限に発揮させるかがむずかしい		58.3	75.0	50.0
	4. 指導内容が多すぎる		4.2	25.0	0
	5. 基礎的運動であり、興味・関心をもたせるのがむずかしい		25.0	25.0	25.0
	6. 危険が伴う		4.2	0	5.0
	7. 測定法やルールがわからない		4.2	0	5.0
	8. できる子とできない子の取り扱いがむずかしい		12.5	0	15.0
	9. その他		4.2	0	10.0
ボ ー ル 運 動	1. 運動技能に自信がない		18.8	0	23.1
	2. 指導方法がわからない		18.8	0	23.1
	3. 指導内容が多すぎる		0	0	0
	4. 作戦における集団技能の指導がむずかしい		41.7	33.3	61.5
	5. 児童が解放的となり、その管理がむずかしい		53.3	66.7	38.5
	6. ゲームにおける審判・ルールなどわからない		0	0	0
	7. グループ編成がむずかしい		31.3	0	38.5
	8. その他		6.3	33.3	0

水	1. 運動技能に自信がない	34.4	0	42.1
	2. 指導方法がわからない	31.2	5.9	36.8
	3. 泳げる子・泳げない子の取り扱いがむずかしい	43.0	82.4	34.2
泳	4. 児童全体の管理がむずかしく・危険が伴う	77.4	76.5	77.6
	5. その他	0	0	0
ダ	1. 運動技能に自信がない	62.7	31.6	73.2
	2. 指導方法がわからない	6.7	10.5	5.4
	3. 評価がむずかしい	22.7	26.3	21.4
ン	4. フォークダンスのステップや組み方など、また創作ダンス(表現)の時間・空間的 要因・美的法則など理解していない	24.0	10.5	28.6
	5. 男女差、個人差をふまえた指導がむずかしい	25.3	63.2	12.5
ス	6. 子どもに興味・関心をもたせるのがむずかしい	40.0	36.8	41.1
	7. 指導内容が平易でなく、把握しにくい	14.7	10.5	16.1
	8. その他	2.6	0	3.6

〔体操〕体免取得者が指導しやすい理由としては「一斉指導ができ全体を把握しやすい」、次いで「体力を高める目標に対して、他領域よりも意図的・計画的であるので取り扱いやすい」と多く回答しているのに対して、他免取得者では指導しやすい理由に「一斉指導ができ全体を把握しやすい」、次いで「特別な技能・体力を要さなくとも指導できる」と回答している。したがって両者とも体操は比較的指導しやすい領域であるとしながらも他免取得者の体力・技能に対する意識の傾注が窮える。

〔器械運動〕器械運動はさきに、体免取得者は指導しやすい、他免取得者は指導しにくい領域であるという結果を得ている。指導しやすい理由として体免取得者では、「児童に興味・関心をもたせやすい」が最も高い値を示し、次いで「個人の能力を発揮させるのが容易」と回答しているが、他免取得者では「指導内容・方法が具体的である」、次いで「児童に興味・関心をもたせやすい」と回答している。指導しにくい理由として体免取得者では「できる子とできない子の取り扱いがむずかしい」が多い。他免取得者では「危険が伴う」、「運動技能に自信がない」と多く回答しているが、その理由は多岐にわたる。したがって他免取得者の器械運動の技能の不足や指導方法などに関する研究不足が指導のしやすさ・しにくさに結びついていることが認められた。

〔陸上運動〕指導しやすい理由として体免取得者では「結果が時間・距離など客観的な数値で表わすことができ、個人に具体的な目標をもたせやすい」が最も多く、他免取得者では「基礎的運動であり、誰でもできるので取り扱いやすい」が多い。指導しにくい理由として体免取得者が「個人の能力をいかに引き出すか、また最大限に発揮させるかがむずかしい」が多く、他免取得者にもその理由は共通した傾向にあるが、「指導方法がわからない」も多い。したがって他免取得者においては陸上運動

に対する観点が体免取得者とはやや異なる傾向にあると云える。

〔ボール運動〕ボール運動はさきに両者とも6領域中最も指導しやすい領域であると言った結果を得ている。指導しやすい理由として体免取得者では「児童の発達に応じてルールやコート of の広さなどを変えて行うことができ扱いやすい」が多く、次いで「運動技能に自信がある」、「グループ別に指導できる」が同率に多い。他免取得者では「グループ別に指導できる」が多い。次いで「グループ別に指導できる」と回答しているが両者に差はない。指導しにくい理由として体免取得者では「児童が解放的になり、その管理がむずかしい」と回答しているが、他免取得者では「作戦における集団技能の指導がむずかしい」と多く回答している。したがってボール運動の指導は児童の興味・関心が高く、チームゲームを主体にした種目であり、グループ編成が容易であることなどの観点から指導しやすい領域になっている。

〔水泳〕指導しやすい理由として体免取得者では「児童に興味・関心があり、活発に指導を進めやすい」が最も多く、次いで「指導方法をよく知っている」である。他免取得者では「児童に興味・関心があり、活発に指導を進めやすい」が多く、次いで「運動技能に自信ある」と回答している。指導しにくい理由として体免取得者では「泳げる子・泳げない子の取り扱いがむずかしい」が多く、次いで「児童全体の管理がむずかしく、危険が伴う」が多い。他免取得者では「児童全体の管理がむずかしく、危険が伴う」が多く、次いで「運動技能に自信がない」、「指導方法がわからない」、「泳げる子・泳げない子の取り扱いがむずかしい」と回答し、全面的に指導のしにくさが窮える。水泳に関しては別の調査結果から、体免取得者では「クロール」、「平泳ぎ」とも全員25m以上の泳力があるのに対し、他免取得者では10m以下(全

然泳げない者も含め)が「クロール」55.4%、「平泳ぎ」51.6%と多く、他免取得者の水泳指導がしにくいとする意識は水泳技能の有無からみても当然と云える。

〔ダンス〕ダンスはさきに、水泳と同様に両者とも指導しにくい領域との結果を得ている。指導しやすい理由として体免取得者では「音楽・楽器など利用でき興味・関心をもたせやすい」、「運動技能に自信ある」、「指導方法をよく知っている」に各々同率に回答している。他免取得者では「音楽・楽器など利用でき興味・関心をもたせやすい」が特に多く、次いで「指導方法をよく知っている」と回答している。指導しにくい理由として体免取得者では「男女差、個人差をふまえた指導がむずかしい」が最も多く、次いで「子どもに興味・関心をもたせるのがむずかしい」、さらに「運動技能に自信がない」と回答している。他免取得者では「運動技能に自信がない」が特に多く、次いで「子どもに興味・関心をもたせるのがむずかしい」と回答している。したがって指導の難易性の理由として体免取得者では、ダンス指導上の内容および展開面から指導のしやすさ・しにくさを意識しているのに対し、他免取得者では、ダンスの技能の有無が指導の難易性に影響を及ぼしていることが認められた。

3) 教科体育の授業運営について

表一5は小学校学習指導要領の具体的目標を受けて、運動領域別に体力・技能・安全・態度の4つの側面から捉えて、主にどの側面に重点をおいて指導しているかについての結果である。体免取得者と他免取得者を比較すると、領域別指導の重点のおき方からみて、全体的に運動領域を3つの観点から捉えることができる。すなわち、体操とボール運動、器械運動と水泳、陸上運動とダンスである。①体操とボール運動では体免取得者と他免取得者の重点のおき方に差異がみられる。体免取得者は体操において「体力」40.0%、「態度」33.8%、ボール運動では「態度」33.8%、「技能」29.2%の順に重点をおく者が多い。他免取得者は体操において「態度」47.8%、「体力」24.2%、ボール運動では「技能」41.4%、「態度」31.2%の順に重点をおく者が多い、両者は重点のおき方が全く逆である。表一4、表一5から推察して他免取得者の体操およびボール運動の領域に対する意識の不足が関連している結果と思われる。②器械運動と水泳では体免取得者と他免取得に差異はみられず、両者とも各領域の重点に「安全」とする者が多い。③陸上運動とダンスでは体免取得者と他免取得者の重点のおき方に共通の傾向がみられるが、陸上運動の「技能」と「体力」、ダンスの「技能」と「体力」において両者の重点のおき方の比率に差異がみられる。表一2、表一3、表一4か

表一5 運動領域別指導の重点 (%)

領域	項目	免許別		
		全体	体免	他免
体	技能	20.7	18.5	21.7
	体力	28.8	40.0	24.2
	安全	6.8	7.7	6.4
操	態度	43.7	33.8	47.8
	技能	29.3	29.2	29.3
器	体力	5.0	6.2	4.5
	安全	56.3	56.9	56.1
運	態度	9.5	7.7	10.2
	技能	47.3	24.6	10.8
上	体力	58.6	53.8	60.5
	安全	13.1	10.8	14.0
運	態度	13.5	10.8	14.6
	技能	37.8	29.2	41.4
ボ	体力	14.0	26.2	8.9
	安全	16.2	10.8	18.5
	態度	32.0	33.8	31.2
水	技能	3.6	3.1	3.8
	体力	10.8	6.2	12.7
	安全	80.6	87.7	77.8
泳	態度	5.0	3.1	5.7
	技能	24.7	18.5	27.3
ダ	体力	6.8	15.4	3.2
	安全	1.4	0	1.9
	態度	67.1	70.8	67.5

表一6 運動領域別指導の形態 (%)

免許別	領域	項目	体	器	陸	ボ	水	ダ
			操	械	上	ール	泳	ンス
全	児童中心	体	46.8	52.2	48.2	65.3	24.7	66.7
		操	53.2	47.8	51.8	34.7	75.3	33.3
体	児童中心	体	58.5	67.7	55.4	86.1	18.8	72.3
		操	41.5	32.3	44.6	13.8	81.2	27.7
免	児童中心	体	42.0	45.9	45.2	56.7	29.0	64.3
		操	58.0	54.1	54.8	43.3	77.9	35.7

ら推察して、他免取得者の両領域における技能の不足や運動特性についての研究不足などから体免取得と間に意識の差がみられると思われる。

4) 教科体育の運動領域別指導の形態

表一6は運動領域別の指導の形態について示したものである。「教師中心」とは系統的に学習させようとする教師中心の一斉指導の形態を云い、「児童中心」とは、教師の指導のもとに学習者相互の人間関係を重んじ、自主性を伸すグループ学習の形態を云う。質問は直感的なものであるが、体免取得者では水泳の指導を「教師中心」とし、他の運動領域では「児童中心」の指導形態をとる

傾向がある。他免取得者ではボール運動とダンスの比較集団での活動を主体とする領域を「児童中心」の指導形態とし、他の運動領域では「教師中心」の指導形態をとる傾向にある。したがって体免取得者では危険が伴う水泳指導は一斉指導が中心になり、その他の運動領域ではグループ学習をとる者が多い。他免取得者では体操、器械運動、陸上運動、水泳の指導を一斉指導とする傾向にあり、ボール運動とダンスはグループ学習をとる者が多く、意識の差がみられた。

表一七 授業中の示範

(%)

項目 \ 免許別	全 体	体 育	体育以外
よ く 行 う	34.7	72.3	19.4
時 々 行 う	63.1	26.2	79.4
行 わ な い	2.3	1.5	2.6

5) 教科体育の授業中の示範について

表一七は授業中の示範の程度について示したものである。体免取得者では示範を「よく行う」72.3%、「時々行う」26.2%、「行わない」1.5%であるのに対し、他免取得者では示範を「よく行う」19.4%、「時々行う」79.4%、「行わない」2.6%である。児童は教師の積極的な示範により技能や技能のポイント、運動の方法などを理解し、興味や関心を高めることが多い。その点体免取得者においては示範に積極的であるが、他免取得者では消極的であると云える。なお示範を「行わない」とする理由は両者とも、「上手な子どもに行わせる」、「絵や写真を見せる」と回答している。

(2) 教科外時間における指導について

表一八は休み時間や放課後において、子どもとの遊びの度合を調査したものである。体免取得者では「よく遊ぶ」36.5%、「時々遊ぶ」69.8%、「遊ばない」9.5%であるのに対して、他免取得者では「よく遊ぶ」24.2%、「時々遊ぶ」63.1%、「遊ばない」12.7%と体免取得者

表一八 教科外の子どもの遊びの度合

(%)

項目 \ 免許別	全 体	体 免	他 免
よ く 遊 ぶ	27.7	36.5	24.2
時 々 遊 ぶ	60.5	69.8	63.1
遊 ば な い	11.8	9.5	12.7

表一九 体育クラブの指導状況

(%)

項目 \ 免許別	全 体	体 育	体育以外
指 導 し て い る	54.5	86.2	44.2
指 導 し て い な い	45.5	13.8	55.8

よりもやや消極的傾向にある。「遊ばない」理由としては両者共、「雑務に追われて時間的余裕がない」と回答している。

表一九は体育クラブの指導状況について調査したものである。体免取得者では体育クラブを「指導している」86.2%、「指導していない」13.8%に対し、他免取得者では「指導している」44.2%、「指導していない」55.8%ある。体免取得者については立場上当然の結果と云えるが、他免取得者では半数以上が「指導していない」とし消極的である。

要約および今後の研究課題

第1報および第2報では、小学校助教諭の体力・技能と教科体育への意識について報告してきたが、本研究においては、1、2報で未解明であった助教諭の取得免許別の教科体育への意識について、女子教員の保健体育免許取得者と他教科の免許取得者に分類し、調査分析した結果、次のような結論を得た。

教科体育の意識について

体育の指導のしやすさ・しにくさについては、保健体育免許取得者と他教科の免許取得者との間に顕著な差異がみられた。保健体育免許取得者においては水泳およびダンスが比較的指導しにくい領域であり、水泳では「子どもの泳力の差の取り扱い」や「危険に対する子どもの管理」についての不安、ダンスでは「男女差、個人差をふまえた指導」の難しさが認められた。

保健体育免許取得者以外の他教科免許取得者においては器械運動、水泳、ダンスが指導しにくい領域であり、技能に対する自信の有無や危険に対する認識が影響していると云える。体操、陸上運動、ダンスでは各運動領域の特性についての基礎的な理解の不足、指導法に関する研究の不足が認められた。したがって初等教員養成課程における教材研究などでは、各運動領域の指導の中核となる技能の習熟が必要であり、同時に各領域の特性を踏まえた基本的な指導方法の習熟が要求される。

今後の研究課題として、本研究は教職経験、年齢等に深く関連すると思われるので、これらの追求と、さらに対象者を助教諭から現職にある小学校免許取得などまで広げ、調査研究していきたい。

稿を終えるにあたり、第1報および第2報の共同研究者であった東洋大学助教授稲田清氏および測定と結果の整理等に御協力いただいた皆様に謝意を表します。

参 考 文 献

(1) 文部省：小学校指導書体育論，東洋館出版社，1969，

5.

- (2) 亥野他：小学校体育についての現職教員および教員志望者の意識と指導資質とに関する研究，日本体育学会，第25大会号。
- (3) 矢野久英：運動への学習，日本体育社。
- (4) 東京学芸大学促進体育学科調査研究委員会：小学校婦人教師の体育指導に関する調査，1975，2。
- (5) Vannit, M: Teaching Physical Education in Secondary Schools Saunders Second Edition, 1975.
- (6) Evelynl. Schurr. : Movement Experiences for Children, 1975.
- (7) 森清他：助教諭の体力・技能と教科体育への意識，文教大学紀要第10集。
- (8) 森清他：助教諭の体力・技能と教科体育への意識，文教大学紀要第11集。
- (9) 文部省体育局：昭和50・51年度体力・運動能力調査報告書，1977，3。